

地図を見ながら歩き旅

旅は出会う喜びがあります。

初めて行く所はもちろん、昔行った所を再び訪ねる喜びもあります。

ましてや、前から行きたかった所は、こころ待ち遠しい。

4月の歩き旅に先立ち、参加者の皆さんに事前に地図をお渡しします。この地図を見ながら、どう歩くのか考えてみるのも楽しいものです。少しだけ地図を見ながら一緒に歩きましょう。地図は、2万5千分1地形図を拡大して2万分1にして見やすくしてあります。

■は、地図にある名称なので追跡してください。

□は、森塚が案内に追記しました。

実はこのコース、呼び掛け人自身も歩いていない所が多くあります。今の時期、雪の冬山状態でいけませんし、呼び掛け人も当日初めて行くコースを存分に楽しもうと思っています。

さ一、地図にサインペンで色付けしながら歩きましょう。

(1日目) JR比叡山・坂本駅 → 比叡山 → 大原 → 民宿・大原辻

2日間の日程で、特に1日目はどう歩くか考えどころです。

スタートは、JR湖西線「ひえいざんさかもと」：比叡山坂本駅」です。この湖西線、以前は民間の線路（江若鉄道（株）運営）で、大津から琵琶湖の北部・今津駅までしかなく、1時間に1本もないような田舎鉄道で昭和44年に廃止されました。鉄道のレールをすべて外し、廃線跡を利用して今の全線高架の近代式の線路になったのが昭和49年。その廃止の間、5年間はバスで運行出来たというくらいの脆弱鉄道でした。その湖西線が今や大阪・北陸を結ぶ特急のコースになったり、京阪神の通勤圏になり多くの乗客を運んでいます。

歩き旅のコースは駅を出て西に進みます。すぐに高速道路の下を横断して京阪石山坂本線の終着駅「さかもと」：坂本駅」の駅前を通ります。駅前と言っても広場もなく店も期待出来ません。そこから西にたくさんの田マークがあります。お寺の印です。道路の北にも南にもあり数えてみると40寺もありました。地元住民の寺と考えるより、やはり比叡山関係の山の下のお寺でしょうか。

この通りの南1キロに「あろう」：穴太」の集落があります。「穴太衆の石積」で戦国時代にお城の石積で全国に名を広めました。この坂本の寺院の石垣にも穴太の石積みが残っています。信長消えても石積みは残る。「信長はどんな人だった？」石積に聴いてみましょう。

京阪・坂本駅から西に500m行くと道は突き当たります。

突き当たった所に、文を○で囲んだ高校の印 **㊦** があります。(○なしは小・中学校の印)。その北に**日吉大社**があります。全国にある「日吉神社」の総本山です。何の神様かよく知りませんが、比叡山の鎮守社：守り神でもあります。比叡山が京都の東北鬼門のお寺で、日吉大社はその守り神なので威力は凄そうです。境内には素晴らしい空積みのお寺の石橋もありますので少しだけ見て行きましょう。

さあ、比叡山の登りです。高校のすぐ北に破線の山道があります。登ってすぐに車道と交差する以外、地図上では1本道です。比叡山に登るにはたくさんの登り道があります。この坂は、**本坂**と呼ばれる坂ですのでしっかりした道でしょうか。比叡山の上のお寺と先程の見た多くの山の麓のお寺を結んだメインストリートです。この本坂の南側に**比叡山鉄道**があります。途中2駅 (**ほうらいおか**、**もたてやま**) と2つのトンネルもあります。この山の傾きですので一般の鉄道ではなくケーブル鉄道でしょうか。

この最初の山登りは今回の歩き旅の一番の頑張り所(標高差500m)です。山道を歩けば1時間ほどですが、鉄道では一瞬でしょう。歩いてご利益を期待するか、後の山道を歩いて後利益を拾うか考えところです。

歩いて登る人は、全員一緒にゆっくり登りましょう。ケーブルでも登っても歩いて登っても、振り返れば光る琵琶湖が輝いているでしょう。

山の上に着きました。延暦寺を探してもその名の寺院はありません。延暦寺は山の上のお寺の総称です。地図には**延暦寺境内**とあり、この延暦寺境内に多くの寺があります。

①**根本中堂**、②**阿弥陀堂**、③**浄土院**、④**釈迦堂**、⑤**相輪どう**とコースをとります。途中に地図に出ていない寺院もあるでしょうが。この中で中心となるものが①根本中堂です。

比叡山・延暦寺を創った「最澄」創設以来、不滅の灯明が今も根本中堂のお堂の中に燃え続けています。この建物は織田信長の比叡山焼き下ろしで無くなり、徳川時代初期に再建されたものです。

③浄土院は最澄の菩提をお守りしているところです。この区域にある寺院だけでもお互い離れていて、深い山に囲まれ趣があります。

比叡山のこの区域散策のあと、2つのコースを用意しました。

(1) ケーブル・バス利用コース

西方向へ30分歩いて「ロープウェイ」「鋼索線」で「やせ」に下るコース。

比叡山の西側は京都府です。**ロープウェイ**と**京福電鉄鋼索線**：ケーブルを乗り継いで一気に京都の地上へ降りて行きます。**ケーブルやせ**から駅前の川を越え南北

の道路に通っている「京都交通バス」で北上し大原に行きます。大原・三千院までは約5キロ、途中に野瀬町、近衛町、秋元町など趣きのある山村もありますが、途中の道は車の交通量が多くお勧めできません。

地図野村別れのバス停で降りて、大原の散策になります。

東の山裾にある三千院・勝林院、西の山裾にある寂光院などを訪ねた後、宿泊地・草生町（くさおちょう）の民宿 大原辻に入ります。

（2）横川経由の山道コース

北方向へなだらかな尾根道を1時間歩いて横川方面へ行き、そこから大原に下るコース。

⑤相輪〇のあと、奥比叡ドライブウェイの下道をくぐり、ドライブウェイの西側に併走している山道（峯道）を北上します。玉体杉の地点からは見晴らしも良く、千日回峰の行者も暫し見た琵琶湖・京都の街並、北に比良の山々があります。横高山へ登る直前で右方向へ向きを換え、ドライブウェイの下をくぐります。今度は車道を左手にして横川（よかわ）エリアに向かいます。横川中堂、元三大師堂などを廻って少し引き返し、大原越のコースへ入ります。ここからは東海自然歩道のコースにもなりますので案内看板などがあるでしょうか。ドライブウェイの下を潜って急な一度下り道があり、そして仰木峠まで登り直す山道です。仰木峠から300m先に分れ道があり北側の東海自然歩道と書かれてあるルートを行います。そして地図 印のバス停・野村別れにすれば一安心です。ここで（1）ケーブル・バス利用コースと同じ地点に合流します。バス停すぐに、唯一のコンビニがあり利用出来ます。

大原は、都の北にある小さな集落です。大寺院が多くあるのでもなく、みやげ屋が賑わっているのでもありません。周りを山に囲まれ、すこしばかりの田と低い家々が、今日と明日の生活をしている、どこにでもある集落です。それなのに、四季を通して多くの人が尋ねる不思議なところです。

三千院の南と北に2つの小川があります。小さな川です。北側の小川を「律川」、南側のそれを「呂川」と呼びます。御経を歌のように唱えるのを「声明」と呼びますが、「呂川」「律川」の流れの音と和し、そして、あまりに美しい声明に滝の音が消えたのが「音無滝」。こんなお話しを耳にして、三千院の東600m、来迎院先の音無滝を訪ねてみたくなるのが「大原ワールド」なのでしょうか。

大原の尋ねるところは多くありません。三千院・勝林院・来迎院、そして民宿近くの寂光院。

それをすべて尋ねてもそう時間を使うものではありませんが、時間の流れを少し止めて、足をとめて大原を散策するのもいいのではないのでしょうか。

次の日の朝は、大原の里の西裾を歩き鞍馬・貴船に向かいますので、参加者は1日目に大原散策を時間の許す限りお楽しみ下さい。

(2日目) 民宿・大原辻 → 鞍馬寺 → 貴船神社 → 叡電・出町駅

2日目は選択肢の少ないシンプルなコースです。

民宿で朝食を済ませて、朝の大原に別れを告げ鞍馬へ向かいます。江文峠は標高320mですが大原・野村集落で標高220mですので、標高差100mですので軽い峠道です。野村町から峠に向かう大きな車道がありますが、それを避けて井手町に南下し、そこから北西の細い道を行います。大きな車道をクロスして300m先に江文神社があり、西に方向を換え江文峠に向かいます。

峠手前で車道に合流しますが、峠ですぐに南側の山道に入ります。2キロほど歩けば静原町集落になり、そこから標高差160mの薬王坂を登ります。この坂道も東海自然歩道ですので、たぶん問題は無さそうです。薬王坂が通過できないと静原集落から南西に3キロ+野中町から北に3キロの大迂回をしなければいけません。薬王坂は距離が短いので登り下りの勾配はありそうです。

下り切ると鞍馬の街並です。街を南北に通る鞍馬街道に出ると落ち着いた街並とお土産屋も少しある叡山電鉄鞍馬線の終点駅・くらまの駅前。お昼前ですが少しお腹に入れたりするのもいいでしょう。お奨めは、自家製の山椒餅です。軽食も出来ます。

さて、一息ついて鞍馬の大きな山門から登り始めます。地図を見ても判るように道は、くねくねと葛折になっています。

ケーブルもあるようですが、短い短いケーブル鉄道なので、待っている間に登れるかもしれません。このケーブル実は、日本一短く(200m)、乗車時間2分、鞍馬寺が運営する乗車料金なし(寄付金:100円)。別の意味で乗ってみたいくなるケーブルです。

山道の途中に由岐神社があります。毎年秋に鞍馬の火祭りでは有名な祭りがありますが、鞍馬寺の火祭りではなく、鞍馬にある由岐神社の火祭りです。由岐神社は鞍馬寺の鎮守社で、昨日の日吉神社と延暦寺の関係と同じです。

鞍馬寺の本堂に到着後、体力のある人は奥の院へ、もう充分という方は引き返して鞍馬駅に戻ります。

奥の院へは、鞍馬寺の本堂から更に登ります。牛若丸が修行したという奥の院まで、もうひと頑張り。木々の根が地面に貼り巡らされ、それを跨ぎながら山を登るパワースポット鞍馬はこの奥の院で感じられます。

奥の院から西に急坂を降りたところが貴船町です。

貴船は山あいの集落。両側に家があり、その西には山が迫り、東側は清流・貴船

川。冬の雪は真上からしか降りてこれないほどの狭い集落です。この集落の宝が**貴船神社**と**貴船川**。この2つの宝刀で人々を、古都の奥座敷まで足を引き込ませます。真夏には川の上に座敷を並べ、「川床料理」として涼をとります。4月には「川床」をやっている店もあるのでしょうか。古都の春もこの貴船で終わりますので、時間とお金の許す方はお立ち寄り下さい。

貴船から叡山電鉄「**きふねぐち**：貴船口駅」までは気持ちのいい貴船川の川音を聞きながら下り坂を歩くのは最高です。

川の淵には、庭の日本庭園で重宝する茶色の「鞍馬石」があります。駅までは　キロ、約30分もすれば到着し、今年の「歩き旅」は終わります。あとは叡電の小さな車両で目を閉じ夢見ながら、叡山電鉄終着駅「出町柳駅」へ帰ります。

地図を見ながらの「歩き旅」はいかがでしたか。あえてコースを記入しませんでした。文章に出てきた**地図にある名称**や**森塚の追記物**を見つけながらコースを見つけてください。

1日目は比叡山、2日目は鞍馬山の山登りがあります。ハイキング並みの山ですが、一般ハイカーで歩く人もそう多くはなさそうですし、単独では行動せずに4・5人程度のグループになっておれば、トラブルがあっても何とかあります。添乗員なしの自分で考えて歩く歩き旅です。楽しい旅にきっとなるでしょう。

歩き旅のコース選定にあたり、彦根の水野功さん、京都の横井功さんからご指導頂きました。有難うございます。